

コブとヒカリと

昔よく遊びに行っていた祖母の家は、海が見える崖の上の家。そんなところに暮らしてみたくなったクライアントは、2年前にそこに引っ越した。ずっと海外のいろんなところで生活してきた彼女にとって、毎日がとても新鮮で気持ちも落ち着き、ゆったりとした時間のなかで暮らすことの幸せを知った。しかし、祖母の家はとても賑やかで集中して創作するには少し不便に感じていた。

狭くも広い空間

狭いところが落ち着くというクライアント、このアトリエの中で長く滞在するトコロ(ヤスムトコロ・ツクルトコロ)は他のトコロより狭くすることによって落ち着いて仕事に没頭できて、ゆっくりと安らげる空間になりました。またこの空間に仕切りはありません。玄関にある扉くらい。空間と空間をまっすぐにつなげるような仕切りではなく、段差や床の狭さなど目に見えるけれど気にならないそんな仕切りを使うことにより、扉という仕切りをたくさんつけるより狭いけれど奥行きという広さも感じられるデザインに。

ラクダを思うクライアントのためにラクダの大切な体の部分のひとつ、コブを空間を照らすために必要な光を取り入れる窓としての役割を持たせた。そこから入る光は1階となる玄関部分も柔らかな自然の光で照らしてくれる。ツクルトコロは緑の壁が黒板の役割を果たし、とっさの思い付きをメモしたりデザイン案を磁石で貼っておくこともできる機能が。ちょっと一息つきたいときは天窓からの日差しで日向ぼっこでも。ヤスムトコロはラクダの頭。頭や体の疲れを取ってくれるのは彼女の好きな海。窓から眺めたり自然のさざ波を聴きながらゆったりとした時間を。

クライアント：27歳 女性 身長148cm

職業 デザイナー・文筆家などさまざま、
PCがあればどこでも仕事ができる

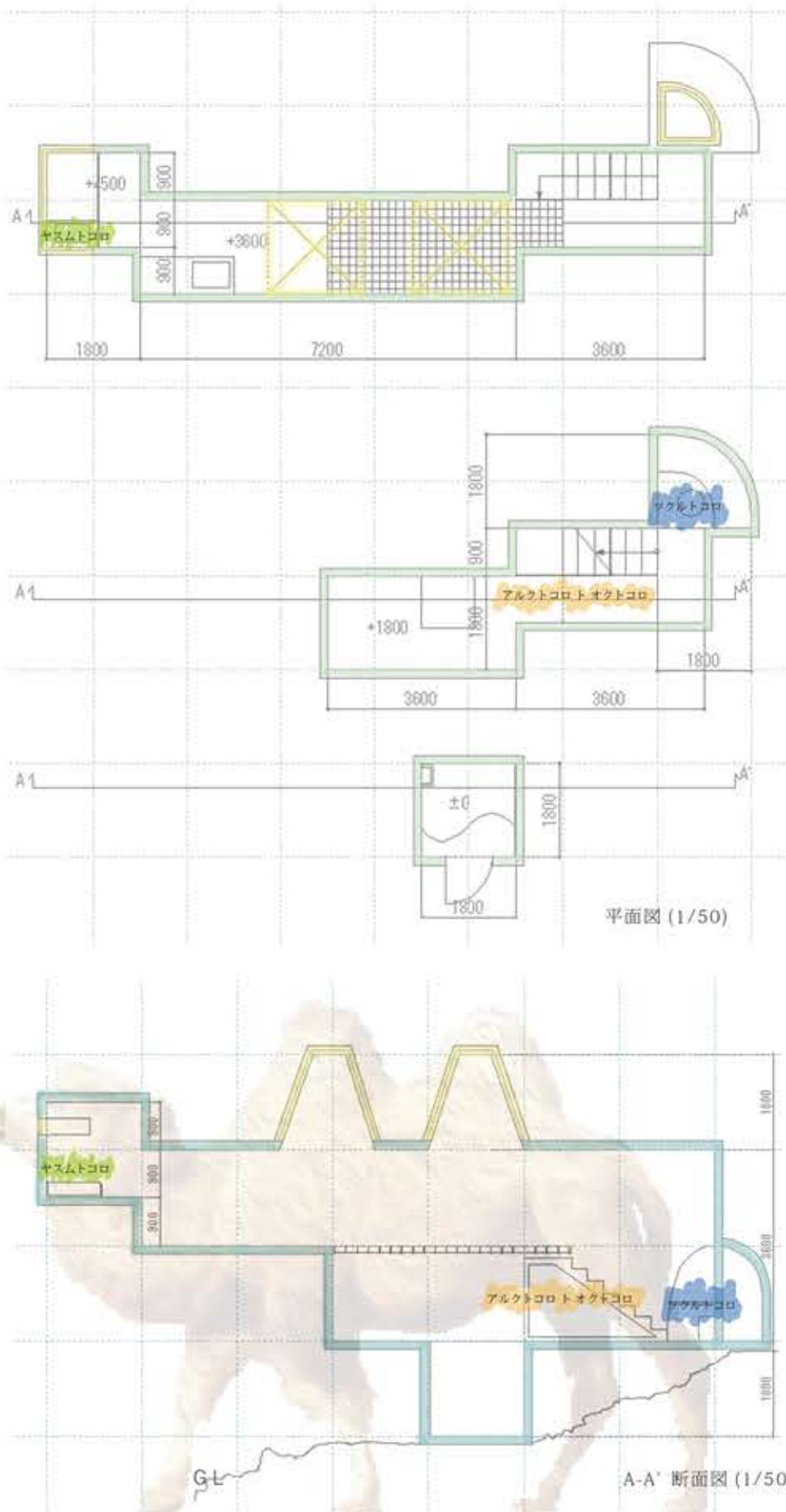
要望：狭いトコロなら落ち着ける
明るすぎず、暗すぎず
ラクダ感溢れるアトリエ

エレメント

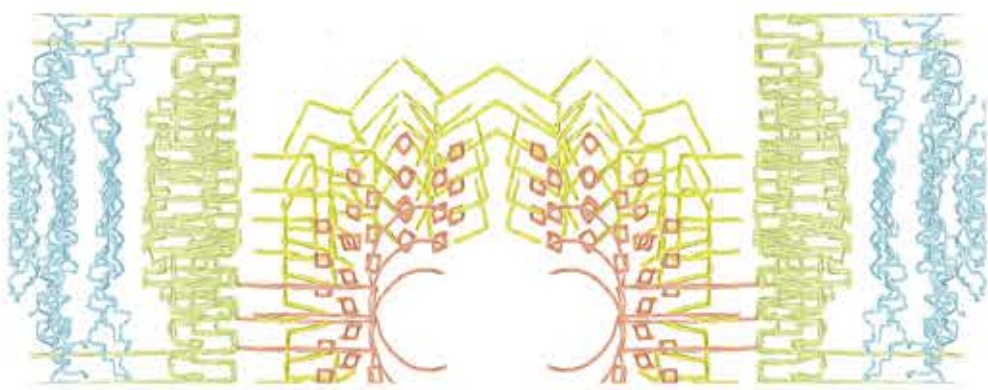
外壁：板金やコンクリートはもちろんのこと鱧の皮やラクダの皮、コルクなどを使った世界に一つの外壁
床：3階部分に使われているのはグレーチング。コブからの光を1階まで届ける

予算：3,500万円

・これは1800mmの立方体15個で構成されている



自然の音・光を感じながら、安らぎ、考え、生み出す空間。この空間はアトリエであり、私が生み出したモノたちの家であり、未来に残る私の軌跡であり、遺跡である。必要なものを置き、作品を飾るスペースはもちろん、アイデアを描いたりする書斎としてのスペース、考えたり、描いたり、作ることに疲れたとき、一人になりたいときのためのスペース。至って普通と呼べる、そんなアトリエ。しかしどこか居心地が良い、そんなトコロ。



クライアントの作るデザインパターン

